

## OMIYA NEWS



No.77

2023年11月9日 JR東労組大宮地本

10月の鉄道営業収入はこれまで以上に順調に推移! 前年比116%、コロナ前比91.7%を達成し「目標未達」を解消! 収入は「右肩上がり」に増加!好業績は職場の努力によるものだ!

10月の鉄道営業収入(対前年度・2018年度比)

※他社との精算前の数値

	定期	定期外			合 計
		近距離	中長距離	合計	
対前年度比	110.2%	112.7	123.1	118.7	<u>116.0</u>
2018年比	83.6	<u>100.5</u>	92.9	95.7	<u>91.7</u>

- ■鉄道営業収入は、お客さまのご利用回復と国内旅行やインバウンド等、移動ニーズの高まりにより、定期外を中心に利用者が増加! 上半期以降も増加傾向が続いている!
- ■10月の鉄道営業収入も順調に回復し、鉄道営業収入の合計は前年比 116%、2018年比 91.7%に達し、「コロナ前比9割」の収入目標を達成!
- ■近距離の定期外収入は 2018 年度比 100.5% の実績となり、コロナ前をも上回る水準を実現!



私たちの苦闘により、 **業績**回復を実現!!

また、7日の定例記者会見では、「運輸収入は右肩上がいに増えておい、傾

向は変わっていない」との社長コメントがあったとの事です(サンケイスポーツの web 配信より) 今後も回復傾向が期待される中、社員の努力に報い、モチベーションの維持・向上と人材確保のために、年末手当満額回答が必須であることは明らかです!!



職場の努力により第2四半期決算は増収増益! 鉄道営業収入も「右肩上がり」で支払能力は十分だ!

会社は今こそ満額回答で職場の苦闘に報いるべきだ!!

職場で議論を深め、東労組への結集を呼びかけ、年末手当満額回答を勝ち取ろう!



## OMIYA NEWS



No.78 2023年 11月10日 JR東労組大宮地本

2023 年度 年末手当に関する申し入れ

職場の思いと乖離した驚愕の会社回答!

基準内 賃金

# 2-65 九月

支給日(予定) 令和5年12月 4 日(月)





大幅業績回復も 現場の苦労を無視した この低額回答は 到底許されない!!

本部は席上にて再申し入れを通告!

職場に渦巻く怒りの声を結集し 中央本部と共に最後までたたかおう!



## OMIYA NEWS



No.79 2023年11月10日 JR東労組大宮地本

窓!こんな低額回答認められるか! 年末手当満額獲得決起集会 職場の密りを形にして、再申し入れのたたかいに繋げよう!

11月10日、年末手当の会社回答を受け、レイボックホールにおいて「怒!こんな低額回答は認められるか!年末手当満額獲得決起集会」を開催しました。今集会には90名を超える仲間が結集し、会社回答・職場実態・経営姿勢に対する怒りが多く出されました。

### ≪参加者からの発言≫

- 怒りと共に、会社に舐められているのだと感じる。休日出勤は昨年よりもさらに増え、<u>時間も金</u> <u>も奪われ強い怒りを感じている。</u>
- <u>働き度が上がる中、この支給額では納得できない。</u>現場長に対し役員報酬が増えている事についてどう思うかを聞いたが、「役員の人数が減ったので報酬は減っている」との回答に疑問。
- ■2.65では少ないと率直に感じた。<mark>職場では「離職者が増える」との声も出ている。</mark>
- ■未加入者からも「今回は期待していたが…」との声が多かった。仲間と共にたたかいを創る。
- ■勤務後に職場の声を聞いてきたが、全員が「低い!」との声。
- ■現場長に見解を求めた。「JR東海の壁と世間の壁は超えられない。でももっと出せたのではないか?もっと社員の声を聞いてほしい」と述べている。
- ■会社回答に対し緊急アンケート実施。全員が「不足している」「再申し入れは必要」と多くが回答。
- ■未加入者も「低い」との声。昨年までは「仕方がない」と言う声もあったが、今回は出ていない。
- ■一人暮らしを始めたので生活が厳しい。未加入者からは「団交が無ければもっと 低い額だったのではないか? モチベーションも上がらない。会社に対しても幻 滅する」との声が出た。未加入者に対して訴えながら組織拡大につなげたい。
- <u>組織再編により業務が増えた</u>との声が出ており、現場で経験してこなかった業務が増えている。そのような中でこの回答で唖然とした。絶対に許せない。

会社回答や経営姿勢への強い怒りや離職者増大への不安が噴出! 怒りを形にして、職場からさらなる組織強化・拡大を創り出す決意が語られる!

黒字に回復させた職場の苦労に報いない経営姿勢に怒り!

怒りの声を「再申し入れのたたかい」に繋げ、満額回答を実現!組織強化・拡大を勝ち取ろう!





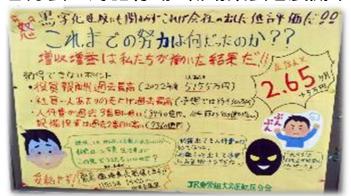


JR東労組大宮地本 No.80 2023年11月12日

### 私たちは会社回答に納得していない

年末手当要求実現に向け、職場からさらなるたたかいを展開中!

職場の苦闘に報いない低額回答と一方的な経営姿勢は許せない! 各分会で対話行動・職場集会を展開中! 回答以降 500 件を超える声を集約!





掲示板は会社回答や経営姿勢への怒りと満額回答を求める声で埋め尽くされる!!

今回の回答は「職場の声を受け止めた 最大限の回答」だとは到底思えない!!



- 回答への失望と怒りで一杯だ。働く者をバカに している。職場の努力に真摯に向き合う姿勢が 感じられない。怒りを形にしてたたかうべき。
- 過去最高の働き度の中で苦労して業績回復し たのに、努力に応えず過去最低レベルの支給 額。それでも役員報酬だけはコロナ前以上の 水準だ。こんな経営姿勢は絶対に許せない!
- ●モチベーションが全く上がらない。融合と連携 や統括センター化で仕事は今後さらに増える が、取り組む意欲が全く出てこない。
- ●離脱者や若手からも怒りの声が多く 出ている。離職者が増えるのではない か。新卒も集まらず、要員が不足する!

- ●増収やコストダウンを意識し企画業務にも取 り組んできたのに無意味だった。仕事がきつく なるだけで社員への還元は無い。
- ●期末手当の上乗せ率変更を視野に入れて額を 抑えているのではないか? 一部の人が貰える だけでは、苦労が報われない現実は変わらな い。全体の底上げこそが必要だ。
- ●過去最高の働き度の中でこの数字では賃下げ と同じだ。業績を回復したのは経営陣ではなく 社員なのに大切にしない。会社の将来が不安。
- ●この様な経営姿勢では今後さらに 業績が良くなっても出さない事が 目に見えている。怒りをバネにして 組織を強化・拡大してたたかう!





スマホの方は ここをタップ!!



私たちの声を本部に届け、さらなるた たかいを職場から共に創り出そう!



No.81 2023 年11月 14 日 JR東労組大宮地本

### 年末手当の低額回答に対し

### 怒りの本部見解が発出される!!

現場の富闘・努力をかえりみない、「年末手当・低額回答」に対する怒りをパネに

現場第一としない経営姿勢にこれからも全組合員で立ち向かう中央本部見解

2023年度年末手当のたたかいは、例年とは異なり、成績率見直しに対する問題意識を高め、年間6ヶ月以 上の水準を勝ち取ることをめざし、組合員・社員の生活実態(賃金抑制と物価上昇による生活苦)に加え、「融合 と連携」により"過去最高の働き度だ"との職場からの悲痛な声も出ていることから、過去最高の2007年度の 期末手当を上回る3.7ヶ月の要求を掲げ、現場第一としない経営姿勢に立ち向かってきた。

この間、JR東日本の期末手当(夏季手当+年末手当)は、2007年度の年間6.2ヶ月が最大支給月数であった。その後、リーマンショックの影響で2009年の期末手当が6ヶ月を下回るものの、東日本大震災の影響から回復した2015年以降、年間6ヶ月を上回ってきた。

そして、2019年の6.09ヶ月の翌年から、赤字・コロナを理由として2020年4.61ヶ月、2021年4.0ヶ月、2022年4.76ヶ月と期末手当が非常に低く抑えられ、その最中、21春間では定期昇給の昇給係数2までもがカットされた。さらに、2021年から歴史的な物価上昇が始まり、私たちの生活等はさらに苦しくなってきた中でのたたかいでもあった。

ある経営幹部が職場訪問したとき「世の中が変わってしまった。もう過去を取り戻そうとか、過去を回復しようだとか、例えば決算の数字を見るにしても、営業業績を見るにしても、コロナ前と比較してどうかではなく、前に向かって新しいチャレンジをしていく」「過去を大きく乗り越えて、新しいJR東日本グループをつくっていきたい」とあいさつがされたそうだ。

しかし、団体交渉の中で会社は「営業利益がコロナ前の水準に及ばない」「営業利益はコロナ前に比べ未だ約 6割の水準に留まっている」「お客さまのご利用が回復した結果、営業利益が黒字計上することが出来た」「現時点で5万人近い社員数である」「営業利益は東日本大震災の時と同程度」など、これらの回答だけとっても、"会社こそが、職場の労苦をかえりみることなく、コロナ前に拘り、過去を大きく乗り越えていないじゃないか!"と声を大にして言いたい!まさに、黒字計上できたのは職場の努力があってのことであり、そもそも手当は労働に対する対価である。だからこそ「過去最高の働き度」に見合った手当を支給すべきである!

職場は過度な要員不足の中、「融合と連携」による仕事のやりづらさや、病欠を余儀なくされ、仕事を辞めようかと悩んでいる組合員・社員もいる。その理由として不当労働行為ともとれる言動が当たり前のように行われ、職場内外における傷害事件なども発生し、ある記事では「ブラック企業」と揶揄されているが、汚名を返上するどころか、悪化の一途を辿っていることも一つの要因として考えられる。このようなJR東日本の現場第一としない経営姿勢では、いずれ信じられないような大事故や、人材倒産の危機に追い込まれてしまうのではないかといった不安が深まる一方だ。

私たちは労働組合として、仲間の苦しい叫びと怒り、苦しさを我がものとして受け止め、職場風土を改善する ためにたたかいに決起しよう I

JR東労組は、2023年度年末手当の低額回答に到底納得できないことから、要求満額回答実現に向け、申1 0号「現場第一の姿勢で組合員・社員の努力に報い、モチベーションと生活の維持・向上の実現を求める年末手 当に関する緊急再申し入れ」を提出した。交渉では、第3回交渉以降寄せられた組合員・社員の8728件の声と 不満95.6%、満足1%という声を会社にぶつけてきたが、会社は「納得していると言う声が相当数いる」と認 識を示し「最大限であり最終回答」と回答を再考することはなかった。

最終的に要求の前進を勝ち取ることはできなかったが、中央執行委員会は苦渋の決断として妥結することと した。全組合員と、現場第一としない経営姿勢をつくりかえるために、組織強化・拡大を何としてでも成し遂げ ていくものである。同時にバス関東本部・バス東北本部・ステーションサービス協議会の年末手当等交渉の要求 実現に向けて、職場から連帯してたたかおう 1 そして、24春間で、現場の奮闘・努力をかえりみない、現場第一 としない経営姿勢にこれからも全組合員で立ち向かっていこう 1

年末手当要求実現に向けてたたかった、全ての仲間の皆さんに感謝と御礼を申し上げて、中央執行委員会と しての見解とする。

> 2023年11月14日 東日本旅客鉄道労働組合 中央執行委員会





No.82 2023年11月14日

JR東労組本部





No.83 2023 年11月 15日 JR東労組大宮地本

# 職場の奮闘をかえりみない経営姿勢を許さない! 全組合員と共に立ち向かう大宮地本見解を発出!

職場の奮闘をかえりみない「年末手当低額回答」の経営姿勢に対する怒りをバネに 現場第一主義で全組合員と共に未来へ立ち向かう大宮地本見解

2023 年 11 月 14 日、中央本部は年末手当 3.7 ヶ月満額回答を求めて申 10 号「現場第一の姿勢で組合員・社員の努力に報い、モチベーションと生活の維持・向上の実現を求める年末手当に関する緊急申し入れ」交渉に臨んだ。しかし会社は第 3 回交渉の 2.65 ヶ月+5 万円という回答を再考するという姿勢は一切なく、全地本代表者会議の議論の結果、悔しいが妥結の判断に至った。中央本部は団体交渉で組合員と未加入者 8,728 件の声を集約して会社に訴えてきたが、会社は回答を覆すことはなかった。「最高の働き度」を悩み苦しみながら実践してきた現場の苦労が報われなかったことに「現場第一主義を尊重する」という会社回答を信用することは出来ない。

大宮地本はこの年末手当要求のたたかいにおいて、支払い能力は十分にあると分析し、中央本部が打ち出した要求の根拠や必要性を組合員や未加入者と議論してきた。各支部では独自に取り組みを展開し、私たちが求める要求額づくりや集会への結集、組合員メッセージ行動、本部激励行動など創造的に行ってきた。しかし 11 月 10 日の第 3 回交渉で示された会社回答の 2.65 ヶ月+5 万円という数字に私たちは絶句した。この会社回答の感想では「3 ヶ月は出ると思った」「役員報酬は上げておいてこの数字はない」「会社の覚悟とは何を言われても出さないという覚悟のことか」「モチベーションなど上がらない」「離職が増える」など否定的意見が多く、「納得する・理解する」などという意見はほとんど無いのが現実である。この第 3 回交渉での会社回答を受けて、大宮地本として同日に「怒りの決起集会」を開催し、中央本部の交渉席上での緊急再申し入れ通告という重みを我がものとして、14日の緊急再申し入れ交渉までの短期間に 637 件の意見・感想を集約して中央本部に届けてきた。その多くは会社回答への否定であり、怒りの声である。交渉で会社は「納得しているという声が相当数ある」と回答したが、仮にそうであるならば一部の意見を優先するという意志の表れであり、私たちの声を何度も「受け止める」と言葉では言うがその姿勢を全く感じとることは出来ない。

今、職場では明らかに要員不足で発生している課題や、「会社に魅力を感じることが出来ずに離職する」「裏で不当労働行為が暗躍している」「社員を暴力やパワハラでねじ伏せる」など異常と言える多くの問題が発生している。そして「安全は経営のトッププライオリティ」という言葉とは裏腹に、これまで積み上げてきた安全風土が崩壊している事象が相次いで発生している。このことは「稼ぐ」を主眼に置いた経営姿勢が招いていると危惧する。労働組合として、収益優先・自己利益優先で現場の労働者が犠牲になることを見過ごすわけにはいかない。

大宮地本は11月14日に緊急全支部代表者会議を開催し、年末手当のたたかいについて総括してきた。会社への怒りも当然だが、一方で「今のこの会社姿勢をつくり出している私たちがいないか?」「是正していくために何が必要か?」を議論し、改めて組織強化・拡大と団結が必要不可欠という結論に至った。

年末手当 2.65 ヶ月+5 万円という低額回答で妥結する悔しさを組織の力に変えて、これ以上私たちの賃金を抑制させないために、そして明るく安心して働ける職場を再構築するために次なるたたかい・未来に向かうたたかいに決起する決意である。そのたたかいの全ては組織強化・組織拡大であることを全組合員に訴えて大宮地本執行委員会の見解とする。

2023年 11月 15日 東日本旅客鉄道労働組合 大宮地本執行委員会